

城下町の発展どう実現

信長、秀吉、秀長のまちづくり紹介

戦国期の英傑たちはどのように城下町を発展させたか。歴史作家で多摩大客員教授の河合敦さんによる講演会が、岐阜市美江寺町のぎふしんフォーラムであり、「信長、秀吉、秀長に見るまちづくり」と題して語った。

織田信長は、清須、小牧山、岐阜、安土と居城を変えていった。河合さんは小牧山城の城下町を「近世城下町の源流」と表現。その特徴は、道路で碁盤のように区切った「長方形街区」と、

多摩大客員教授河合さん

岐阜市で講演会

道路に沿って間口を狭く奥行が長い家を並べる「短冊型地割り」。それらを組み合わせた町を山城の麓に整備した。「当時としては画期的。これが近世城下町の基本骨格となっていくが、最初に見いだしたのが信長だった」と語った。

河合さんは、岐阜や安土での「人を集めて城下町を栄えさせる手法」に注目。居城の中で最も長くいた岐阜城は、楽市楽座で知られる。河合さん



戦国期の英傑たちのまちづくりをテーマに講演する河合敦さん。岐阜市美江寺町、ぎふしんフォーラム

んは、円徳寺（岐阜市神田町）の門前を例に挙げた。同所では、もともと月に数回は農村から人が集まって物が売買される「市」が存在したが、普段は人がいない。「信長は市に人を集め

てさまざまな形態で自由に商売させることによって人の来住を促し、『住民』がいる町へと発展させた」と説明した。

さらに、「信長の手法は豊臣兄弟に引き継がれた」とし、豊臣秀吉が築いた大坂の城下町づくりを紹介。秀吉は、湿地帯に縦横無尽に水路を開削し「瀬戸内海から京都まで通じる物流の街を作り上げた」。その掘削した土を埋め立てて「長方形街区」を作り、大手門へ向かう東西道路をメインストリートに、東西に走る太い道を表の「〇〇通」、南北は裏の「〇〇筋」として町を整備したという。

また、大坂城の弱点である南側に武家屋敷街を配置して防御を固めた。商人・職人の居住区をつくり、「堺などから有力商人を強制的に移住させるな

どして商人誘致を推し進めた」などと解説した。

秀吉の弟・秀長が整備した大和郡山（奈良県）についても紹介。秀長は当時栄えていた奈良の門前町での商売を禁じ、日用品まで全ての取引を郡山の城下で行うよう命令したという。郡山では税を免除する一方で、奈良の商人には高い利子で金を貸し付ける「奈良借」を実施して商人を経済的に圧迫。「奈良で商売すると大変なことになると。郡山を急速に栄えさせるために、奈良をさびれさせるといふやり方で商人たちが郡山に集まるように仕向けた」と述べた。

講演会は岐阜信用金庫が主催する「しんさんの日講演会2026」の一環。市民ら800人超が耳を傾けた。

(田代理加)